

ワクチン「担い手」育成を



崇城大薬学部生に接種実習

シミュレーターを使ってワクチン接種の練習をする
崇城大の薬学部生＝4月4日、熊本市西区

加、医師が2時間指導した。学生たちは、人間の上腕部分を再現したシミュレーターを使い、実際に注射。筋肉にワクチンを注射する基礎知識や、副反応を想定した対処法も学んだ。

実習前のアンケートでは、「筋肉注射を自信をもって行うことができるか」の問いに76・4%が「できない」と答えたが、実習後は79・7%が「できる」「おそらくできる」と答えた。指導した内田友二教授は「薬剤師はワクチンの温度管理など、打つ前の準備を担うが、接種の経験はない。間違えへの恐怖心や心理的なハードルが実習で払拭された」とみる。

今後、薬学部教育の一環で、筋肉注射を実習する方針。内田教授は「コロナワクチン接種が3回目、4回目と続く中、薬剤師も打ち手を担えるのではないかと、すぐに打つ機会がなくなっても、流れを知ることでも他職種との連携もスムーズになる」と話す。(志賀菜里耶)

新型コロナウイルスのワクチン接種が進む中、熊本市西区の崇城大は、薬学部生を対象にワクチン接種の実習に取り組んでいる。接種は法律上、医師や看護師に限られ、特例として歯科医師らが認められている。薬剤師の卵に、将来的な「打ち手」としての期待を込める。

ワクチン接種は医療行開始。4年生134人が参

ワクチン接種は医療行